通し番号	４８６０

分類番号	28-C8-34-01

（成果情報名）相模湾主要河川河口域の底質環境調査結果について

[要約]

相模湾の浅海域の水域環境の評価に関する基礎資料とするため、主要な河川の河口域において底質や底生生物のモニタリング調査を実施するとともに、湾内の藻場の現況について調査を行った。その結果、大部分の河川の河口域（境川、相模川、金目川、早川、千歳川）では底質が比較的安定していた。しかし、酒匂川はサンプルごとに相違が激しく、また、底生生物も他河川で見られない種が卓越するなど、特殊性が際立っていた。

（実施機関・部名）神奈川県水産技術センター・相模湾試験場

[背景・ねらい]

相模湾浅海域の海藻類の植生、底質など、水域環境の変化を的確にとらえることにより、水質浄化作用、水産資源の生育場所としての機能や漁業生産力への影響を把握・評価するため、陸水との接点である河口周辺の調査を実施した。

[成果の内容・特徴]

１　主要河川河口域の底質環境の変化の把握（平成19～28年度）

境川、相模川、金目川、早川及び千歳川などの水深20メートル前後の河口域に定点を設け、夏及び冬に底質、底生生物及び水質の調査を実施した（酒匂川は別事業で実施したデータを利用）。

底質については粒度組成、強熱減量等全4項目、水質は温度、塩分濃度を計測した。

平成22年からの調査結果や、別事業（同項目・手法）で調査した酒匂川河口のデータも含めて比較すると、粒度組成は酒匂川以外では毎年安定しており、他に境川、相模川、金目川ではCOD、強熱減量、全硫化物量も変化が少なかった。酒匂川河口は粒度組成（図１）をはじめ、すべての検査項目で調査ごとによるばらつきが大きく、また、底生生物についても他でほとんど見られない種が卓越しており、底生生物相の類似度が他河川と比較して最も低かった（図２）。

[成果の活用面・留意点]

１　酒匂川の濁水の影響により荒廃した河口域の漁場環境の回復度合を比較・評価する。
２　養浜や河川改修などの事業や洪水等天災による影響を評価するための基礎資料とする。
３　藻場については、磯焼け現象などにより海藻の生育状況等に変化がみられるため、状況を監視するとともに、貝類種苗の放流適地を選択するための基礎資料とする。

[具体的データ]

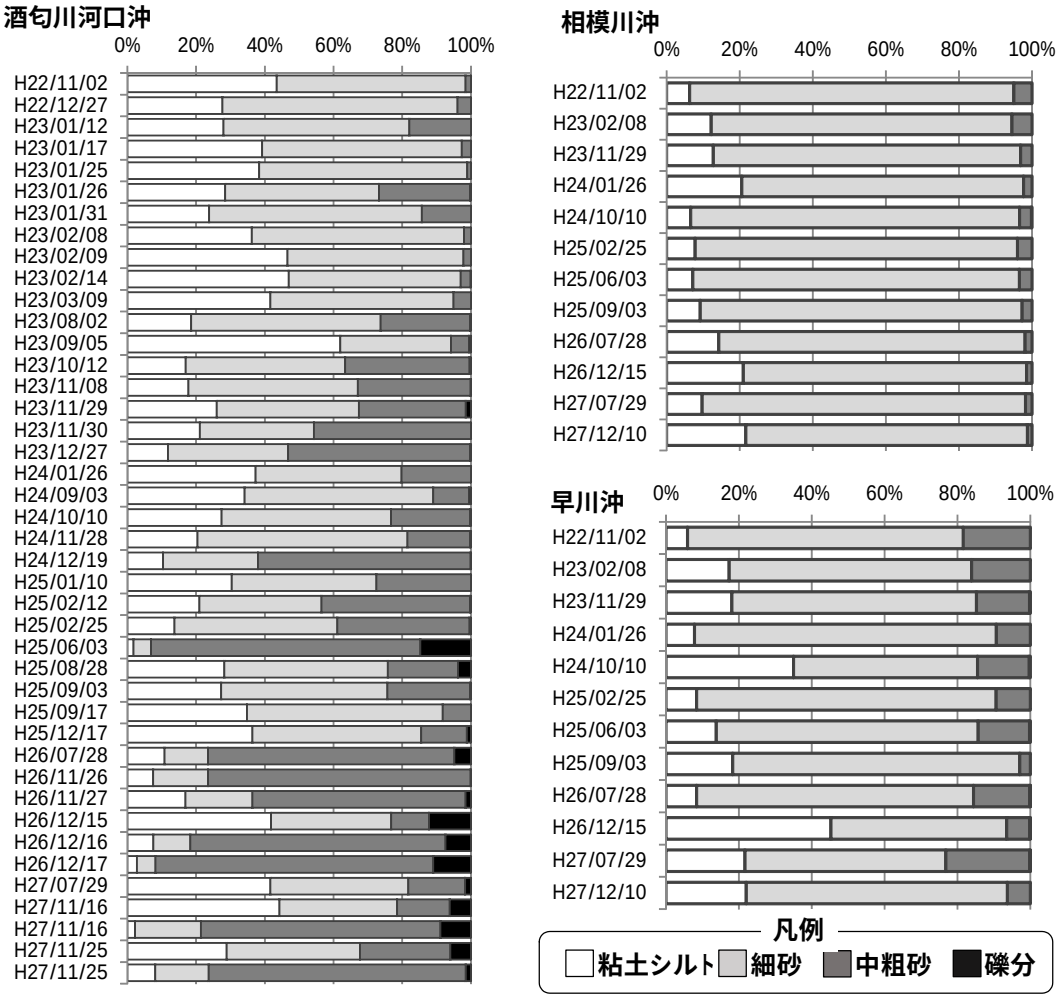

図１　酒匂川および近隣主要河川河口域における粒度組成の経年変化

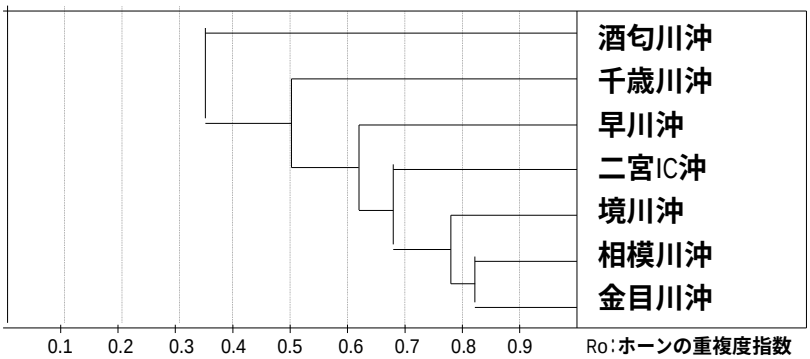

図２　測点別底生生物相の類似度の樹形図

[資料名]

[研究課題名] 漁場環境保全調査

[研究期間] 平成19年度～平成28年度

[研究者担当名]相澤　康、原田　穣